

別記
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和8年3月13日

コミュニティ名 ALLWEL (オールウェル)
代表者所属名 精華町立山田荘小学校
代表者職・氏名 教諭 角田 啓介

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

ALLWEL (オールウェル)

2 研究テーマ

認知能力と非認知能力を一体的に育む国語教育の実現

3 研究の目的

本コミュニティの目的は、教員の「学びたい気持ち」を核として、子どもの資質・能力の向上を図るため、いつでも目の前の子ども達に寄り添い、共に研究をし続けることにより、参加教員の資質・能力の向上を図ることである。

学習指導要領及び第2期の京都府教育振興プランの理解を深めることはもちろん、すべての子どもを大切にす教育を実践することにより、同和教育の成果と手法を具現化する。国語科の授業を中心に、目の前の子どもたちの実際の学んでいる姿や今日的課題を踏まえて、学ぶ意義を実感できる実践を創造し、道徳教育の充実を図ることにより、認知能力と非認知能力を一体的に育む授業づくりにつなげる。

また、学んだことを学校や学級の実態に応じて工夫して実践するだけでなく、結果を共有し、研修で学んだことを検証、発展させた取組を交流することで、参加教員の資質・能力を相互に高め、常に研鑽し続ける姿勢を涵養していくと共に、様々な課題を自ら解決していこうとする教員を目指す。

4 研究の成果と課題

年間を通じて、国語科・道徳科の授業を中心に、目の前の子どもたちの実態を踏まえながら身に付けたい力に迫っていくためにどのような授業を目指すのかを議論し、日々の授業実践に活かすことができるようになってきている。

今後、研究をさらに深めていくために、学校内で学習した内容を伝達する機会などを設け、自校へ波及していくことが求められる。

5 研究成果の波及方法

事前研究会及び事後研究会を含む公開授業や研修会の実施
参加教員の学校における研究成果の広報活動

6 研究（活動）実績*

年月	研究（活動）内容（具体的に記載）	活動場所
2025年4月9日	どのような学校経営を目指すのか、理想や悩みなどを交流しながら1年間の各校務分掌の計画を深めた。	福祉センター
2025年5月9日	道徳科「知らない間の出来事」を中心に教材研究、発問づくりについて学んだ。 講師：城陽市立東城陽中学校 村田寿美子先生	福祉センター
2025年6月7日	道徳第8回 オープンセミナー 道徳科における教材の読みのポイント 講師：横山 利弘 氏	JA京都ビル
2025年6月27日	算数科「割合」の教材分析を通して、学習指導の在り方について学び、教材研究をグループ毎に実施した。	福祉センター
2025年8月6日	道徳科の教材研究に取り組み、中心発問の検討を中心に行った。図工科では、どのような絵を描かせたいかや技法の交流をした。	城陽市立今池小学校
2025年9月3日	国語科「たずねびと」の教材理解をし、グループ①単元指導計画作成②比べ読みに分かれ教材研究をし、グループ毎に交流を行った。	福祉センター

2025年11月14日	算数科「見方・考え方を深めよう(3)」の事前研究をし、児童の予想される考えや発問等について交流を行った。	福祉センター
2025年11月28日 12月5日	道徳科「学校のかえりみち」「すれちがい」「うばわれた自由」「ロレンゾの友だち」の事前研究をし、児童の予想される考えや発問等についての交流を行った。	福祉センター
2025年12月8日	公開授業・事後研究 2年 吉田 明花音 道徳科「やくそく」 6年 岡 結子 算数科「見方・考え方を深めよう(3)」	城陽市立今池小学校
2025年12月12日	公開授業・事後研究 1年 大原 理美 道徳科「学校のかえりみち」	城陽市立今池小学校
2025年12月17日	国語科「ロボット」道徳科「ぐみの木と小鳥」の事前研究をし、児童の予想される考えや発問等について交流を行った。	福祉センター
2026年1月16日	公開授業・事後研究 2年 指宿 麻衣 国語科「ロボット」	城陽市立富野小学校
2026年1月22日	公開授業・事後研究 2年 角田 啓介 道徳科「ぐみの木と小鳥」	精華町立山田荘小学校
2026年1月31日	道徳第8回 オープンセミナー 道徳教材読みのポイント 講師：横山 利弘 氏	兵庫県学校厚生会館
2026年2月5日	公開授業・事後研究 5年 松本 明子 道徳科「すれちがい」 5年 竹村 祐希 道徳科「うばわれた自由」	城陽市立富野小学校
2026年2月26日	公開授業・事後研究 6年 永井 友浩 道徳科「ロレンゾの友だち」	城陽市立久津川小学校
2026年2月27日	標準学力調査分析・活用講座 分析結果を基に、学級における取組を考え全体で交流した。	福祉センター

7 予算執行状況

- (1) 旅費は、旅費執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究（できるだけ具体的に）

テーマ	認知能力と非認知能力を一体的に育む国語教育・道徳教育の実現
育てたい資質能力	国語科…言葉による見方・考え方を働かせる力 道徳科…自己の生き方についての考えを深める力
実践又は研究の 具体的内容	<p>1 教材分析・教材研究</p> <p>(1) 国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> ①指導事項の確認 ②他教材との関連性 ③教材の読み込み ④単元構想の作成 <p>(2) 道徳科</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教材の読み込み ②価値項目の検討 ③登場人物の考えが変容する箇所に注目しながら発問 検討 <p>個人→グループで教材分析をし、多面的・多角的な視点で教材と向き合う。また、深い学びを通して、資質・能力を育成するため、学習指導要領に基づき、教材研究や単元構想をしていく必要がある。</p> <p>2 公開授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問及び問い返しの工夫 ・児童の見取り方 ・言語活動の充実 ・授業展開 <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、教師の仕掛けや手立ては適切であったか、子どもたちは統合的に理解しているか等、授業者や参観者の授業や子どもを観察する視点を明確にすることと併せて、分析的に</p>

見取る。

3 事後研究

(1) 国語科で話し合う視点

- ①本文全体の叙述から考えていたか。
- ②関連する教材で学んだことを使えていたか。
- ③単元構想が適切であったか。

(2) 道徳科で話し合う視点

- ①設定した価値項目について、自己を見つめていたか。

*振り返りや児童の発言等から検討する。

- ②中心発問だけでなく、前後の発問によって児童の考えは深まったか。

(3) 両教科で話し合う視点

- ①児童の学びに向かう様子
- ②児童の発揮された非認知能力等
- ③資質・能力を育む手立ては適切だったか

上記の3点について話し合い、各自学んだことを言語化し、自身の実践にも生かしていく。